

教材・支援機器活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(29)年度 読み書きに困難な生徒への指導と工夫
授業について	教科名等	■国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術・家庭 □体育/保健体育 □道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他()
	単元・題材名	最後の晚餐・走れメロス
	授業の目標	生徒が自信を持ち積極的に授業に参加することができる。
	観点別学習状況の評価の観点	□「知識・理解」 □「技能」 □「思考・判断・表現」 ■「関心・意欲・態度」 □その他()
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	□通常の学級 ■通級による指導 □特別支援学級 □特別支援学校 □就学前 □小学生 ■中学生 □高校生以降 □特定されない (2)年 (1)人
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 ■LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の課題(特性・ニーズ)	□見る □聞く □話す ■読む ■書く □計算する □推論する □運動と姿勢 □日常生活活動 □不注意 □多動性・衝動性 □社会性・コミュニケーション □覚える・理解する □その他 漢字がほぼ読めず、書くことも難しい。練習をすれば、訓読みはできるようになるが、音読みは覚えられず、定着が難しい。「ひらがな」においても、拗音、促音に対して弱さがある。教科書の読みについては、例えルビを振っていてもたどたどしく、読むことに時間がかかる。漢字の練習をする時は、大きく書いて手本を示すと、漢字を書くことができる。画数の多い漢字は、パーツ分けをして練習すると書くことができる。定期テストについては、数学は良い点数が取れるが、国語、英語ではかなり低い点数である。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像	マルチメディアDAISY教材(自作教材) 使用機器:iPad 使用アプリ:いーリーダー(DAISY再生アプリ) DAISY教材: ・最後の晚餐 ・走れメロス ・わたしと小鳥とすずと
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(□B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 □C2認知発達支援 □C3社会生活支援) 漢字をほとんど読むことができず、今までは教科書の内容を理解することが難しかった。いーリーダー(DAISY再生アプリ)を使って指導することで、読みの負担を軽減し、内容理解を深める。また、読みの困難な生徒が、いーリーダー(DAISY再生アプリ)を使って練習することで、読みに自信を持たせる。
授業に授業展開支援	授業展開と画像	DAISY図書の活用に関して ・ルビの設定をし、最初は音声を聞きながら音読するが、慣れてきたら音声を切り、ハイライトに合わせて音読する。 (並行して実施した支援等) ・ビジョントレーニング ・聞き取りトレーニング
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	短い文、「詩」程度なら、デージーを使って練習すると、最終的にはルビなしで、音読することができた。また、読める漢字をかなり増やすことができた。 これまでは自信がなく取り組もうとしなかった、音読のテストに積極的に取り組むようになった。「わたしと小鳥とすずと」を完璧に暗唱し、教科担当の先生の前で発表することができた。